

第1回定時総会

2026 年度



2026 年 1 月 27 日(火)

柴田・大河原・村田・川崎

SINCE 1983

一般社団法人さくら青年会議所

1 年間を振り返って

第 43 代理事長 菅原 大樹

2025 年を振り返るにあたり、まずは OB 会長野口敬志先輩をはじめとする先輩諸兄姉の皆様、さくら青年会議所メンバーの皆様、各地青年会議所メンバーの皆様、他団体の皆様、お支えいただきました全ての皆様に感謝申し上げます。

2025 年は「一味同心～その先へ～」のスローガンを掲げ活動してまいりました。2024 年度入会が多いメンバー構成の中で、まずは楽しく、そして改めて JC の基礎から学ぶことを念頭にスタートし、1 つ 1 つ丁寧に積み重ねる活動を重視しました。事業や運動の展開は例年になく少ない結果となってしまいましたが、次に繋げていくためにも必要な活動であったと思っております。右も左も分からない中で負担をかけてしまったこともありましたが、苦楽を共にしたこの 1 年間はメンバーにとっても活動の礎になったと確信しております。私にとってもさくら青年会議所での 2 年間の活動はかけがえのない財産となりました。

私自身は卒業となりましたが、これまで経験してきたことを現役メンバーに伝え、今後も微力ながらお力添えしてまいります。

重ねてになりますが、2025 年度の活動に多大なご理解とご協力を賜りまして心より御礼申し上げます。1 年間ありがとうございました。

一般社団法人さくら青年会議所

2025年度事業報告

2025年度 専務理事 小原 綾子

日付	時間	会議／事業名	出席者数
12月19日	19:00	第1回三役会	7名
1月16日	19:30	第1回理事会	5名
1月17日	18:00	第1回定時総会	5名
1月21日	19:30	第2回三役会	3名
2月20日	19:30	第2回理事会	5名
2月17日	19:00	第3回三役会	5名
2月27日	18:30	2月例会	5名
3月04日	19:00	第3回理事会	5名
3月18日	19:00	第4回三役会	5名
3月22日	8:00	3月例会	5名
4月 7日	18:00	4月例会	5名
4月 8日	19:00	第4回理事会	5名
4月24日	19:00	第5回三役会	4名
5月 8日	19:00	第5回理事会	5名
5月18日	10:00	5月例会	5名
5月20日	19:00	第6回三役会	6名
6月 4日	19:00	第6回理事会	7名
6月14日	9:00	6月例会	5名
6月17日	19:00	第7回三役会	4名
7月 8日	19:00	第7回理事会	5名
7月20日		7月例会	6名
7月22日	19:00	第8回三役会	5名
8月 5日	19:00	第8回理事会	5名
8月19日	19:00	第9回三役会	4名
8月29日	18:00	8月例会	6名
9月 2日	19:00	第9回理事会	4名
9月16日	19:00	第10回三役会	5名
9月19日	18:00	第2回定時総会	8名
10月 7日	19:00	第10回理事会	4名
10月17日	20:15	第1回臨時理事会	5名
10月21日	19:00	第11回三役会	4名
10月25日	10:00	10月例会	4名
11月 4日	19:00	第11回理事会	5名

1 1 月 2 2 日	1 8 : 0 0	1 1 月例会	
1 2 月 1 2 日	1 8 : 0 0	卒業例会月例会	5 名
1 2 月 1 8 日	1 9 : 0 0	第 1 2 回三役会	4 名
1 2 月 1 8 日	1 9 : 0 0	第 1 2 回理事会	4 名

2025年度理事会報告

専務理事 小原 綾子

2025年度第2回理事予定者会議 2024年11月26日（火）

- 第1号議案 2025年度理事長所信承認の件
- 第2号議案 2025年度理事長代行業務承認の件

2025年度第3回理事予定者会議 2024年12月10日（火）

- 第3号議案 2025年度さくら青年会議所組織図承認の件
- 第4号議案 2025年度年間スケジュール承認の件
- 第5号議案 2025年度役職職務承認の件
- 第6号議案 2025年度賛助会員承認の件
- 第7号議案 2025年度特別会員承認の件
- 第8号議案 2025年度例会担当委員会承認の件
- 第9号議案 会員拡大会議基本方針承認の件
- 第10号議案 まちづくり委員会基本方針承認の件
- 第11号議案 2025年度予算承認の件
- 第12号議案 2025年度第1回定時総会事業計画並びに予算承認の件

2025年度第1回理事会議 2025年1月21日（火）

- 第13号議案 新入会員入会承認の件

2025年度第3回理事会議 2025年3月04日（火）

- 第14号議案 2025年度さくら青年会議所組織図承認の件

2025年度第4回理事会議 2025年4月08日（火）

- 第15号議案 2025年度例会担当委員会承認の件
- 第16号議案 2025年度5月例会承認の件
- 第17号議案 2025年度第1回定時総会事業報告並びに決算（案）承認の件

2025年度第5回理事会議 2025年5月08日（木）

- 第18号議案 2025年度6月例会承認の件

2025年度第6回理事会議 2025年6月04日（水）

- 第19号議案 2025年度7月例会承認の件

2025年度第7回理事会議 2025年7月08日（火）

- 第20号議案 2025年度8月例会承認の件
- 第21号議案 新入会員入会承認の件

2025年度第8回理事会議 2025年8月05日（火）

第22号議案 2025年度第2回定時総会事業計画並びに予算承認の件

2025年度第9回理事会議 2025年9月02日（火）

第23号議案 2025年度5月例会事業報告承認の件

第24号議案 2025年度6月例会事業報告承認の件

2025年度第10回理事会議 2025年10月07日（火）

2025年度第1回臨時理事会 2025年10月17日（金）

第25号議案 2025年度10月例会承認の件

2025年度第11回理事会議 2025年11月04日（火）

第26号議案 2025年度11月例会事業計画並びに予算（案）承認の件

第27号議案 2025年度8月例会補正予算（案）承認の件

第28号議案 2025年度8月例会事業報告並びに決算（案）承認の件

第29号議案 2025年度第2回定時総会補正予算（案）承認の件

第30号議案 2025年度第2回定時総会事業報告並びに決算（案）承認の件

2025年度第2回臨時理事会 2025年12月4日（木）

第31号議案 2025年度卒業例会事業計画並びに予算（案）承認の件

2025年度第12回理事会議 2025年12月18日（木）

第32号議案 2025年度7月例会事業報告並びに決算（案）承認の件

第33号議案 2025年度11月例会事業報告並びに決算（案）承認の件

第34号議案 2025年度卒業例会事業報告並びに決算（案）承認の件

第34号議案 浜居大地君退会承認の件

第34号議案 高橋裕紀君承認の件

2 0 2 5 年度会員増減状況

2 0 2 4 年度末	会員数	1 0 名
2 0 2 5 年度末	休会者数	0 名

入会者		3 名
-----	--	-----

卒業者	平間俊博	5 名
	菅原大樹	
	小原綾子	
	大村政憲	
	國井勇氣	

退会者	増井英昭	2 名
	高橋裕紀	

除名		0 名
----	--	-----

2 0 2 5 年度末	会員数	6 名
-------------	-----	-----

一般社団法人さくら青年会議所 2025 年度出向者

公益社団法人日本青年会議所東北地区宮城ブロック協議会		
監査担当役員		平間 俊博
財政局	次長	宮本 敏史
みやぎ JC アカデミー委員会	委員	多田 光矢朗

公益社団法人日本青年会議所

東北地区宮城ブロック協議会

監査担当役員 平間俊博

2025 年を振り返るに当たり、まずは私の宮城ブロック出向にお力を注いでいただきました菅原理事長をはじめ、LOM の皆様には大変感謝しております。2025 年はラストイヤーとなりましたが、最後まで皆様に支えて頂いたことにより、宮城ブロック協議会監査担当役員として1年を全うすることができました。

これまでLOMで、培ってきた経験や活動内容をもとに宮城ブロック協議会の発展に微力ながらも寄与できたのではないかと感じております。

私のラストイヤーの監査担当役員という担いが、今後各地または、さくら青年会議所の運動発進に役立つ様、卒業後も尽力して参ります。

ありがとうございました。

公益社団法人日本青年会議所

東北地区宮城ブロック協議会

財政局

次長 宮本敏史

2025 年度において、宮城ブロック協議会の財政局次長として出向させていただきました。議案書に触れた経験が少ない自分がブロック協議会の議案書をチェックすることとなり、当初は、用語の意味が分からない、このチェックが正しいのかわからない等苦労しましたが、千葉局長はじめ多くの方々のサポートをいただき 1 年間頑張ってきました。

今、役割を終えて振り返ると、まず思い出されるのは、ブロック役員の皆さまが事業をより良いものにするために、議案書に向き合い、会議に向き合い、そして事業そのものに真摯に向き合う姿勢の熱量の高さを間近で感じられたことです。また、会社の仕事だけでは決して出会うことのない、多様な方々とのご縁をいただき、多くの刺激を受けることができました。この 1 年間を通じて本当に多くの貴重な経験を積むことができた実感しています。

最後に、出向の機会をいただきました菅原理事長へこの場をお借りして心より感謝申し上げます。

出向報告書

宮城ブロック協議会 JC アカデミー 三塚塾 多田 光矢朗

2025 年度は宮城ブロック協議会の JC アカデミー生として出向させていただきました。JC の活動について体系的に学べる場ということもあり、今後さくら JC の活動を強化に必要な場として皆勤賞をいただくほど積極的に参加し、多くの学びを得ました。

具体例として、行動の重要性を学びました。JC に限らず社業でもデータ調査や仮設立てなど会社のモニター前でできてしまい、知った気になったことで何だかんだ行動しないまま終わっていました。しかし、アカデミーで実際に行動までしてみると、思慮の狭さと行動する大切さを痛感しました。

そして、学びに加え、今後の JC 生活を共にする友人を得られたことも大きな財産となりました。社業では出会えない人たちと、JC だからこそ結べた縁を武器に今後も邁進してまいります。

最後に、出向の機会をいただきました菅原理事長へこの場をお借りして心より感謝申し上げます。

第 1 7 期

財 務 諸 表

自：令和 7 年 1 月 1 日

至：令和 7 年12月31日

〒989-1755

宮城県柴田郡柴田町槻木西一丁目13番25号

一般社団法人 さくら青年会議所

(法人番号:2370105001549)

理事長 菅原 大樹

貸借対照表

令和 7年 12月 31日 現在

(単位：円)

科目	当期	前期
資産の部		
1. 流動資産		
現金預金	200,428	230,287
未収会費	100,000	120,000
仮払金	0	18,378
貸倒引当金	100,000	120,000
流動資産合計	200,428	248,665
2. 固定資産		
(1)有形固定資産		
什器備品	86,138	99,351
リース資産	0	61,600
有形固定資産合計	86,138	160,951
固定資産合計	86,138	160,951
資産合計	286,566	409,616
負債の部		
1. 流動負債		
リース債務	0	69,300
流動負債合計	0	69,300
負債合計	0	69,300
純資産の部		
1. 基金	0	0
2. 指定純資産	0	0
3. 一般純資産	286,566	340,316
純資産合計	286,566	340,316
負債及び純資産合計	286,566	409,616

活動計算書

令和 7年 1月 1日 から令和 7年 12月 31日 まで

(単位：円)

科 目	当期	前期
経常活動区分		
(1)経常収益		
受取入会金	30,000	100,000
受取会費	1,270,000	1,190,000
受取寄付金	28,141	8,541
受取利息	89	10
経常収益計	1,328,230	1,298,551
(2)経常費用		
公 1 事業費	50,600	0
他 1 事業費	110,363	47,463
管理費	1,221,017	1,523,568
経常費用計	1,381,980	1,571,031
当期経常収益費用差額	53,750	272,480
2. その他活動区分		
(1)その他収益	0	0
その他収益計	0	0
(2)その他費用	0	0
その他費用計	0	0
その他収益費用差額	0	0
税引前当期収益費用差額	53,750	272,480
法人税、住民税及び事業税	0	0
法人税等調整額	0	0
当期収益費用差額	53,750	272,480
期首純資産額	340,316	612,796
期末純資産額	286,566	340,316

財務諸表に対する注記

1.継続組織の前提

記載すべき事項はありません。

2.重要な会計方針

(1)固定資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く。）…定額法によっている。

リース資産…所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産は、リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっている。

(2)引当金の計上根拠及び計上基準

貸倒引当金…債権の貸倒損失に備えるため、回収不能見込額を計上している。

(3)消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっている。

3.重要な会計方針等の変更

(1)重要な会計方針の変更

令和7年4月1日以降に開始する事業年度から適用開始となっている令和6年公益法人会計基準（令和6年12月20日改正）を早期適用している。

(2)表示方法の変更

事業費（活動別）において、公1事業費とは公益目的事業のために発生した費用、収1事業費とは収益事業に発生した費用、他1事業費とは会員のための事業に発生した費用と定義している。

貸借対照表の注記

(1)会計区分別内訳

単位：円

科目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	内部取引等消去	合計
流動資産	200,428	0	0		200,428
固定資産	0	0	86,138		86,138
総資産	200,428	0	86,138		286,566
流動負債	0	0	0		0
固定負債	0	0	0		0
総負債	0	0	0		0
純資産	200,428	0	86,138		286,566

(2)資産及び負債の状況

単位：円

科目	場所・物量等	使用目的	金額
流動資産			
預金	七十七銀行大河原支店	運転資金	200,428
固定資産			
有形固定資産			
什器備品	プレジデンシャルリース	法人活動保有資産であり、事業に供している。	86,138
資産合計			286,566
負債合計			0
純資産合計			286,566

(3)使途拘束資産（控除対象財産）の内訳と増減額及び残高

1.公益目的保有財産

番号	財産の名称	場所 面積、構造、物量等	財産の使用状況	帳簿価額（円）					不可欠特定資産	公益充実資金の取り崩し又は剰余金の解消策に充てた額の管理
				前期末	当期減少額	当期増加額	評価差額	期末	取得時期	
				0	0	0	0	0		
計				0	0	0	0	0		

2.法人活動保有財産

番号	財産の名称	場所 面積、構造、物量等	事業区分 事業番号	財産の使用状況	帳簿価額（円）				
					前期末	当期減少額	当期増加額	評価差額	期末
1	プレジデンシャルリース		法人会計		99,351	13,213	0	0	86,138
2	デジタル複合機		法人会計	リース契約終了後、返却済	61,600	61,600	0	0	0
計					160,951	74,813	0	0	86,138

3.公益充実資金

帳簿価額（円）				
前期末	取崩額	積立額	評価差額	期末
0	0	0	0	0

4. 資産取得資金

番号	資金の名称	収・管	帳簿価額（円）				
			前期末	取崩額	積立額	評価差額	期末
			0	0	0	0	0
計			0	0	0	0	0

5. 特定費用準備資金

番号	資金の名称	収・管	帳簿価額（円）				
			前期末	取崩額	積立額	評価差額	期末
			0	0	0	0	0
計			0	0	0	0	0

6. 指定寄付資金

番号	資金の名称	区分	交付者の定めた使途	帳簿価額（円）				
				前期末	当期減少額	当期増加額	評価差額	期末
				0	0	0	0	0
計				0	0	0	0	0

控除対象財産の額の合計	前期末（円）	期末（円）
	160,951	86,138

(4) 資産に係る引当金を直接控除した場合の各資産の資産項目別の引当金の金額
間接法により表示をしているため、省略している。

(5) 有形固定資産及び無形固定資産の内訳と増減額及び残高

（単位：円）

資産の種類		前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	減価償却累計額	当期償却額	減損損失累計額	当期減損損失	差引残高
有形固定資産	什器備品	99,351	0	13,213	86,138	158,622	13,213	0	0	86,138
	リース資産	61,600	0	61,600	0	462,000	61,600	0	0	0
	計	160,951	0	74,813	86,138	620,622	74,813	0	0	86,138

(6) 担保に供している資産
該当なし。

(7) 保証債務等の偶発債務
該当なし。

(8) 引当金の内訳と増減額及び残高

（単位：円）

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額		当期末残高
			目的使用	その他（ ）	
貸倒引当金	120,000	100,000	0	120,000	100,000

貸倒引当金の当期減少額（その他）は、引当金の戻入である。

(9) 借入金の内訳と増減額の残高
該当なし。

(10) 資産除去債務に関する注記
該当なし。

(11) 退職給付債務に関する注記
該当なし。

(12) 関係会社に対する金銭債権又は金銭債務
該当なし。

(13) 補助金等の内訳、交付者と増減額及び残高
該当なし。

(14) 指定純資産の内訳と増減額及び残高
該当なし。

(15) 指定純資産のうち指定寄付資金の受入年度別残高及び支出見込み
該当なし。

(16) 基金の増減額及び残高
該当なし。

(17)代替基金の増減額及び残高

該当なし。

(18)純資産間の振替額

該当なし。

活動計算書の注記

(1)財源区分別内訳

(単位：円)

科目	一般純資産	指定純資産	合計
経常活動区分			
経常収益			
受取入会金	30,000	0	30,000
受取会費	1,270,000	0	1,270,000
（内）正会員受取会費	400,000		
新入会員受取会費	150,000		
特別会員受取会費	50,000		
賛助会員受取会費	670,000		
受取寄付金	28,141	0	28,141
受取利息	89	0	89
経常収益計	1,328,230	0	1,328,230
経常費用			
事業費			
公1事業費	50,600	0	50,600
他1事業費	110,363	0	110,363
管理費	1,221,017	0	1,221,017
経常費用計	1,381,980	0	1,381,980
当期経常収益費用差額	53,750	0	53,750
その他活動区分			
その他収益	0	0	0
その他費用	0	0	0
その他収益費用差額	0	0	0
税引前収益費用差額	53,750	0	53,750
法人税、住民税及び事業税	0	0	0
法人税等調整額	0	0	0
当期収益費用差額	53,750	0	53,750
期首一般純資産又は期首指定純資産	340,316	0	340,316
期末一般純資産又は期末指定純資産	286,566	0	286,566

(2)会計区分及び事業区分別内訳

活動計算書 一般純資産の部

(単位：円)

科目	公益目的事業会計	収益事業等会計		法人会計	内部取引等消去	合計
	公1	収1	他1			
経常収益	50,600	0	110,363	1,167,267		1,328,230
経常費用	50,600	0	110,363	1,221,017		1,381,980
当期経常収益費用差額	0	0	0	53,750		53,750
その他収益	0	0	0	0	0	0
その他費用	0	0	0	0	0	0
その他収益費用差額	0	0	0	0	0	0
税引前収益費用差額	0	0	0	53,750		53,750
法人税、住民税及び事業税	0	0	0	0	0	0
法人税等調整額	0	0	0	0	0	0
当期収益費用差額	0	0	0	53,750		53,750

(3)事業費・管理費の形態別区分

(単位：円)

	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合計	配賦基準
事業費					
会場設営費	19,800	52,690	0	72,490	
資料作成費	30,800	0	0	30,800	
参加記念品費	0	57,673	0	57,673	
計	50,600	110,363	0	160,963	
管理費					
会議費	0	0	61,541	61,541	
渉外費	0	0	97,580	97,580	
通信運搬費	0	0	211,553	211,553	
減価償却費	0	0	74,813	74,813	
消耗品費	0	0	30,640	30,640	
賃借料	0	0	147,400	147,400	
租税公課	0	0	600	600	
支払負担金	0	0	287,710	287,710	
委託費	0	0	198,000	198,000	
貸倒償却	0	0	100,000	100,000	
雑費	0	0	11,180	11,180	
計	0	0	1,221,017	1,221,017	

6．キャッシュ・フロー計算書の注記
会計監査人設置法人ではないため省略している。

7．固定資産の減損損失に関する注記
適用しておりません。

8．税効果会計に関する注記
適用しておりません。

9．リース契約に関する注記
(1)ファイナンス・リース取引
所有権移転外ファイナンス・リース取引
有形固定資産
デジタル複合機

10．金融商品の状況に関する注記
保有しておりません。

11．賃貸等不動産の時価等に関する注記
保有しておりません。

12．関連当事者との取引の内容
該当なし。

13．重要な後発事象
該当なし。

附属明細書

(1)有形固定資産及び無形固定資産の明細
財務諸表の注記に記載しているため省略している。
(2)引当金の明細
財務諸表の注記に記載しているため省略している。
(3)財務規律適合性に関する明細
省略している。

財産目録

財務諸表の注記に資産及び負債の状況を記載しているため省略している。

監 査 報 告 書

一般社団法人さくら青年会議所

2025年度理事長 菅原 大樹 殿

2025年1月1日から12月31日までの事業年度の理事の職務の執行に関して、本監査報告を作成し、以下の通り報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

私どもは、理事と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他の重要な会議に出席し、理事からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算関係書類（貸借対照表、活動計算書、財務諸表に対する注記及びこれらの附属明細書並びに財産目録）について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。

(2) 計算関係書類の監査結果

計算関係書類は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以上

2026年 / 月 17 日

一般社団法人さくら青年会議所

2025年度 監事

監事 栗原 嘉徳



監事 樽見 元太



監事 斎藤 優



監事 森 裕樹

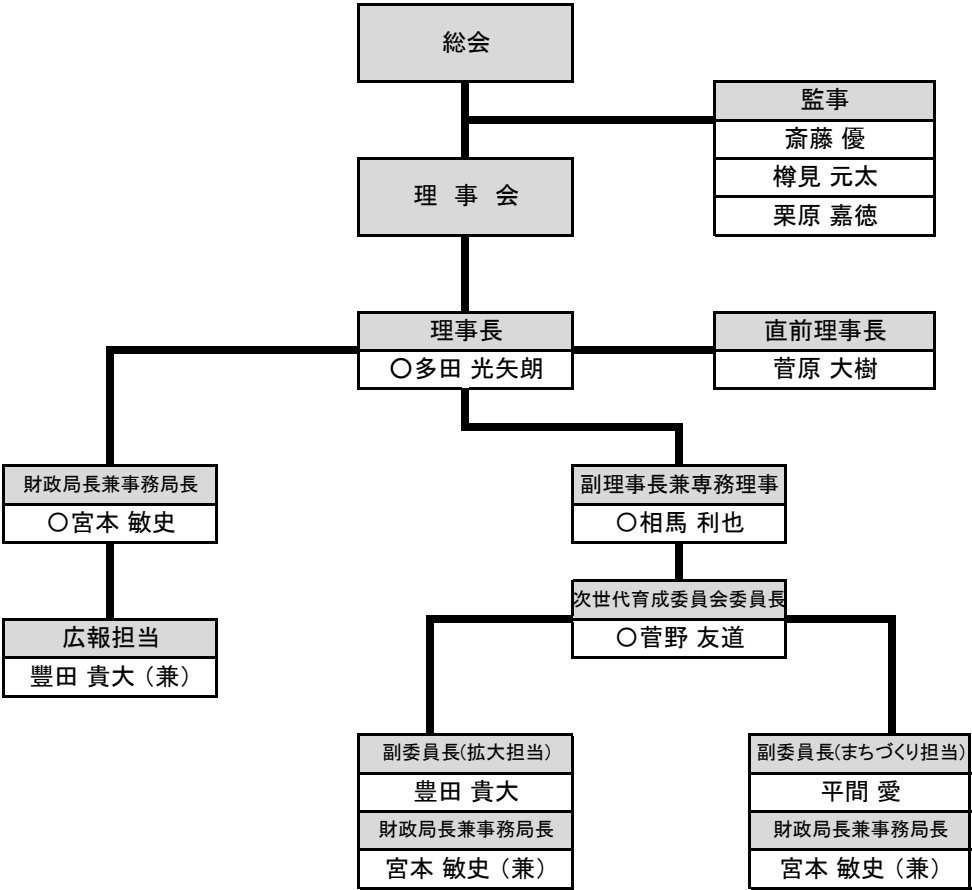


一般社団法人さくら青年会議所 2026年度組織図

国際青年会議所
公益社団法人 日本青年会議所
公益社団法人 日本青年会議所東北地区協議会
公益社団法人 日本青年会議所東北地区宮城ブロック協議会

顧問
柴田町長
大河原町長
村田町長
川崎町長

理事4人(○理事)



出向者
公益社団法人 日本青年会議所
東北地区宮城ブロック協議会
LOM支援委員会 委員
宮本 敏史

一般社団法人さくら青年会議所 2026 年度理事

理事長	多田 光矢朗
専務理事	相馬 利也
理事	宮本 敏史
理事	菅野 友道

【スローガン】

積土成山

～築こう、未来を～

基本方針

JCとしての土台固め

会員拡大

広報戦略

Jayceeとしての基礎強化

<はじめに>

私は、2024年5月にさくらJCに入会しました。その年は右も左も分からず、呼ばれた例会や事業に参加しながら、JCが何を行い、何をえられる場所なのかを手探りする日々でした。2025年には、JCアカデミーに出向し、JCプログラムや塾会に参加することで、JCについての理解が深まりました。また、同じ塾の仲間たちと地域の課題を探り、フィールドワークや現場の方へのインタビューを行うことで、課題発見力や提案力が向上し、JAYCEEとしての基礎が固まりました。そして、塾会やイベントを重ねるなかで、友人と呼べる仲間ができ、JC生活がより実りあるものになりました。

また、さくらJCでの活動としては、監事の皆様や宮城ブロック協議会様から多大なるサポートをいただき、2年ぶりにさくらJC単体で事業を実施できるまでにメンバーが成長しました。入会して間もないながら、これらはJC活動により社業とは異なる経験を得られたからこそその結果であり、JCが貴重な自己成長の場であることの証明です。そして、前向きに参加すればするほど、その成長は大きなものになると確信しています。

さくらJCは、来年で44周年を迎えます。45周年や50周年といった節目が見えてくるなか、経験豊かなメンバーの卒業やサラリーマン層の増加といったメンバー構成の変化により、運営スタイルも大きく変化する節目の年となります。特に活動時間の制約が厳しくなる状況下で、今まで以上の活動を行うには、各作業内容の明確化と効率化が必要です。その状況下で柴田町・大河原町・川崎町・村田町をより良くしたいという強い想いをもち、実行していくには、更なる会員拡大とさくらJCの土台の強化、メンバーの育成が不可欠です。そのためにも、2026年は会員拡大の活動とともに、メンバーが前向きに活動に参加できる環境の構築、並びに成長のための機会を創出し、自走できるさくらJCを作り上げます。そして、JCとして

の強化だけでなく、メンバーのまちの魅力と課題への理解を深めることで、自身のまちに誇りを持ち、課題を解決していく強い意思を持ったリーダーを輩出できるよう、自ら率先して行動してまいります。

【会員拡大】

ベテランメンバーの卒業も重なり、2026年の期首は6名スタートと、会員拡大も急務です。会員がいなければ、事業自体を行うことすら困難となるため、会員拡大はJCにとって必要不可欠な取り組みです。今後もさくらJCが事業を通して、まちの発展に貢献していくには、現状を全メンバーが十分に認識し、危機感を持って会員拡大を行う必要があります。2026年の拡大目標は10名とし、現役メンバーだけでなく、敬愛してやまないOB会諸兄弟の方々のネットワークも借りながら、会員拡大を行ってまいります。

また、会員拡大のターゲットも、従来の若手経営層だけでなく、会社の成長や地域の活性・強化を前面に打ち出すことで、新たな層へのアプローチも視野に入れます。特に、役場のようなまちへの関心が高い人が集まる場所にスポットを当て、交流する機会を創出することで、JCの活動を理解・共感してもらい、会員拡大につなげます。新しい層のメンバーが増えることで、さくらJCに新しい価値観やつながりが増え、多彩な活動もできるようになると考えます。

しかし、単純に人数を増やせばゴールというものではありません。メンバー数が少ない状況で今まで以上の活動を行うには、アクティブメンバーを増やすことが重要です。入会者がJCを継続し、かつアクティブなメンバーとして活動してもらうためには、前述のような活動しやすい環境や、入会後のサポートといった体制面の強化が必要です。現在のメンバーがアクティブに活動できているのは、ベテランメンバーからの多大なるサポートがあったおかげです。しかし、今年からは我々が先輩としてサポートを続けると同時に、今までの個人に頼ったサポートではなく、組織として新入メンバーの活動をサポートできる体制を強化していく必要があります。

こうした会員拡大とアクティブメンバー増加に加え、活動しやすい環境を整えることで、より活気あふれるさくらJCとなり、今までは行えなかった規模の活動が行えるようになります。活動の増加により、まちの発展に貢献するだけでなく、メンバーにJCの存在意義や、自己成長や仲間づくりといったJCならではの楽しさを知ってもらうことができます。そして、その楽しさが次の活動のモチベーション向上になる、そんな好循環をつくれるよう、会員拡大に取り組んでまいります。

<JCとしての土台固め>

期首は入会歴2年未満のメンバーが100%となります。現役のメンバーもJCの存在理由といった概念的な部分だけでなく、実際の活動を進める方法のような実務的な部分も定着しきれていません。加えて、急激な世代交代により先輩方が受け継いできたさくらJCとしての文化やノウハウが途絶える瀬戸際でもあります。

この状況を打破するには、メンバーの育成方法や活動環境を大きく変えていく必要があります。JCに入会して間もない頃は、自分がどのような立場にいて、何のために何をすべきか分からず、とりあえず在籍している時期もあるかと思います。私自身も入会当初はLOMの組織構成や役職、会議での立ち振る舞いすら分からない状態が続いていました。ある程度は仕方のない部分ですが、モチベーションの低下を防ぐためにも、このような期間をできる限り減らす取り組みを行うことで、次世代のメンバーの育成速度が上がり、入会してから自立するまでの期間を短縮することを目指していきます。2025年はベテランメンバーから教えてもらいながら活動できましたが、来年以降はそうしたサポートがない中で進まねばなりません。社会が変化するスピードが年々増していく昨今では、今までの成長速度では追いつかなくなるため、今後はメンバーが力を合わせ、これまで行ってきた諸業務のノウハウやJCのマナーなどを整理・集積しLOM内で共有することで、自分たちでメンバーを育てられる土台を構築します。また、現在のメンバー育成方法は、会議やイベントに実際に参加しながら学ぶ形となっています。行動を通して得られる学びは大切ですが、座学ベースで得られる知識も少なくないと考えます。

そこに先輩メンバーやブロックのサポートによる研修などを取り入れながら、体系的な教育体制を構築することで、さくらJCの土台強化とメンバーの育成速度向上につなげます。

また、活動の効率化も重要です。従来、JCは経営者層が多く集う場でした。しかし、現在のさくらJCのメンバー構成はサラリーマン層が8割を超え、活動時間や資金に制限があるのが実情です。特に日中の活動時間の制限が多い状況下でも今まで以上の活動を目指すには、JCとして必要なことを残しつつ、効率化と活動に参加しやすい環境づくりが求められます。一例としてドレスコードや活動参加への移動コストといった、参加意欲を下げるハードルとなっている要素を洗い出し、可能な範囲で削除・軽減することで、活動参加率の向上につなげ、より多くの経験が得られる土台を構築していきます。

さらに我々が挑戦し、成長し続けていくためには、各メンバーのJAYCEEとしての基礎を強化する必要があります。具体的には、JCの核である事業を自分たちで構築、実行できるようになる必要がありますが、そのための一発逆転の秘策はありません。我々は、各JCやそのメン

バーが当たり前に持っている知識や経験を一から積み上げ、血肉としていかねばなりません。経験の浅いメンバーながらも、まちやLOMの次世代がより良いものなるよう、自分たちに何ができるかを考え、小さなことでも挑戦し、経験を積んでいく必要があります。また、LOM支援委員会を通じた事業構築を強化するための研修プログラムや他JCの事業への参加など、他JC団体の力を借りることで、現在のさくらJC単体では得られない経験を積めると考えます。こうして各メンバーが得た経験は、自分のものだけではなく、LOM内で共有することで、他メンバーも成長し、さくらJCとしての活性化につながります。

こうして、メンバーが経験を積んでいくことで、活動の幅と質が向上し、自分たちで活動を完結し発信できる自立したさくらJCに変えます。このように土台を強固にすることで、地域の課題解決などJCが社会から求められる役割をより多く果たせるようになると思います。

【新しく作るまちの未来に向けて】

まちの未来をダイレクトに変えることのできる、選挙への興味、関心を高めることも重要です。民主主義国家にとって選挙は政治に参加し、主権者としてその意思を政治に反映させることができる最も重要な機会です。

2026年7月には、柴田町長選挙が行われます。柴田町のリーダーを選ぶ重要な機会ですが、直近の町長選の投票率は50%程度と、町民の半数が投票権を行使していません。また、2016年より投票権が引き下げられ18歳以上の方が投票できるようになりましたが、直近で行われた衆議院選では、18～20代の投票率は30%台、対して60～70代の投票率は60%台と、若い世代の政治への興味、関心が低い現状があります。

未来をより良くするには、次世代の象徴である若者の政治への関心を今まで以上に高める必要があります。若者の政治参画意識を高めるため、政治への興味や関心を高められる手法を駆使していかなければなりません。そして一人でも多くの方々に自らが住まう地域の未来を考える場を提供することで、若者も含め各世代が望むまちの未来の実現に近付けます。

【まちへの解像度を上げる】

我々は今まで自分たちのまちにどのような問題や課題があるか深く考えずに過ごしてきました。しかし、どのまちにも問題や課題があります。我々のまちでも行政が問題解決に向けて取り組んでいます。この取り組みにより課題が浮き彫りとなり、それに対して行政機関や各団体がまちの発展のために事業や運動を続けているなかで、我々JCがすべきことはなんでしょう。それは、まちにも問題や課題を理解し、中立な組織であるJCだからこ其他団体では取り組むことが難しい役割を担い、活動を行う必要があります。

さくらの地の魅力として、四季折々の豊かな自然があり、その魅力に触れるため、国内のみならず、海外からの観光者も足をはこびます。それだけの人を惹きつけるものが、あるものの、特定の場所にのみ人が集中し、周りには誰も足を運ばないなど、魅力ある観光資源を活かしきれていない現状があります。

こうした課題を解消するには何が必要なのかを見極めることから始め、実際に地域の魅力を体験し、そして町役場をはじめとしたまちの問題解決に尽力する方々と情報交換を行い、手を取り合いながら地域の魅力を最大に活かした事業を実施します。各組織によって考え方、価値観は様々ではありますが、まちを良くしていきたいという思いは皆、共通しているはずです。そこへさくらJCが加わり、率先して行動することで、まちへの誇りや愛を生み出します。

【広報戦略】

さくらJCが力を入れるべき項目として、広報活動の強化があります。現在のさくらJCは発信が弱く、我々の活動について十分に周知ができていない現状があります。メンバーの成長により活動の幅が広がっている現在、その内容をまちの皆様に広く届ける取り組みも重要です。活動単体では、関わった人たちにしかJCの活動は伝わりませんが、SNSを活用することで、より多くの方々に我々を知ってもらい、さくらJCの活動に理解と共感、関心を得ることにつながります。

本年は広報活動を行うにあたり、去年と引き続き「知らない人に活動を知ってもらう」「誰でも気軽に见てもらおう」「身近に感じてもらえる」を念頭に置き、事業案内や報告だけでなく、日常の活動紹介、事業開催までの準備段階の様子、メンバーの想いなどを継続的に発信していく必要があると考えます。

また、さくらJCのただ活動を報告するだけではなく、効果的な広報手段を考え選択し、活動・運動をより多くの幅広い世代に向けて発信を行い、認知度向上を図り共感を得ることのできる取り組みが必要です。広報手法については、従来のFacebookに加え、時代に即した様々なツールを用い、選任の担当者を設けることで、責任ある広報活動を行い、さくらJCの活動への理解と共感、関心を広めます。

<結びに>

JCは、会社の枠や立場を離れ、一から挑戦し学べる場であると、かつて日本JCの会頭を務めた先輩から教えていただきました。実際、会社の看板や役職も関係なく、一人のメンバーとして活動することになるため、初めて社会に出たときのような気持ちで活動に臨むことになります。

そして、JCでは社業とはまた異なる目的と手法で活動することが多くなります。その活動のなかで、さまざまな人の価値観に触れ、今までにない経験をとおして、社業だけでは伸びづらい部分の成長や達成感を得ることにつながります。会社とJCの両立は、時間や費用の負担が増えるのは確かですが、両方の経験を積むことで短い期間で成長することができ、それが会社の発展、ひいては地域の成長につながります。地域の成長までは長期的な時間はかかりますが、地域や会社は人によってつくられていることから、一個人の成長が会社と地域の発

展にいかに関重要であるかは明らかです。そして、そんな地域の発展に貢献するJC活動が、さくらの地だけでなく、宮城、そして全国666のJCで今この時も行われていることを考えると、我々の活動が社会にとって有用なものであると胸を張って言えます。

残念ながら、JCには40歳で卒業というルールがあります。その限られた時間の中でいかに多くの経験を積むかで、今後の人生は大きく変わります。成功もあれば失敗もあります。しかし、失敗から学べることも多く、JCはその失敗が許される団体です。最も悪とするのは、何もしないことです。

JCでは、多くの人との出会いや多くの学びを得る機会、そして自分が変わるきっかけがあります。今の世の中では、一人でできることには限りがあります。しかし、できないからと諦めて行動しなければ前に進めません。そこで諦めないために、JCという団体があります。一個人や社業ではできないことも、仲間とともにチャレンジし、成功や失敗を繰り返す中で成長し、最終的に各個人の目標を達成していく。JCは、それができる団体です。一つのJCでは難しくても、宮城県内11のLOM、東北ブロック、そして日本全体を巻き込めば不可能はありません。困難と思われることでも、仲間と志を共有し、議論を重ねながら進めていくことで、まちの未来はより良いものになります。失敗を恐れず挑戦し、一つ一つ積み上げていくことで、まちの課題に立ち向かい、明るく暮らせるまちをつくるリーダーへと成長すると信じています。

一般社団法人さくら青年会議所 2026 年度 基本方針	
次世代育成委員会 委員長 菅野 友道	
委員会が 目指す未来	<p>会員拡大の促進に加え、メンバー一人ひとりが自己成長を実感できる機会を創出し、JC 活動への前向きな参加を促すことで JC として強固な土台を築き上げます。そして、地域への深い理解と強い熱意をもって地域課題の解決に率先して取り組める自立・自走型のリーダーと組織を確立し、さくら青年会議所の持続的な発展と地域社会からの信頼を獲得します。</p>
委員会 設置背景	<p>現在、さくら青年会議所は会員数の減少及び経験豊かなメンバーの卒業により、このままでは組織としての基盤が弱体化し、有効な事業を安定して実施することが困難になる恐れがあります。</p> <p>この状況を改善するためには、会員拡大を促進するとともに、メンバーが前向きに参加できる環境を整え、成長する機会を創出し、青年会議所としての組織力強化に加えて、まちの魅力や課題への理解を深められるようにする必要があります。</p>
委員会 事業概要	<p>1.事業概要:さくら青年会議所の土台作り</p> <p>さくら青年会議所の目下の課題である経験不足やノウハウ途絶の危機を打破するため、メンバー一人ひとりがさくら青年会議所に何が必要かを考え、実務的知識の整理・共有基盤を構築し、外部サポートを含む体系的な研修体制の確立を目指します。同時に、活動の効率化をはかることで参加率と経験値を向上させ、結果として、さくら青年会議所が自力で活動を完結・発信し、地域課題の解決に貢献できる組織へと変革させます。</p>
	<p>2.事業概要:新たな層との交流</p> <p>従来の若手経営層に加え、地域の活性化への関心が高い新たな層(役場関係者など)との交流機会を積極的に創出することで、JC 活動への理解と共感を深め、新たな層への会員拡大を図ります。</p>
	<p>3.事業概要:選挙への関心を高める</p> <p>自分の意思を政治に反映させることができる最も重要な機会である選挙を通じた政治参加の重要性を広めることで、次世代の象徴である若者をはじめとする各世代の政治への参画意識の向上を促し、多くの方々に自らが住む地域の未来を主体的に考える機会を提供することで、若者を含む各世代の多様な意思が反映された、望ましいまちの未来の実現を目指します。</p>
	<p>4.事業概要:地域の魅力や課題を知る</p> <p>まちの具体的な問題や課題をメンバー間で協議し理解するとともに、地域の魅力を実際に体験することでまちの魅力を再認識し、現状の課題を解消するには何が必要なのかを見極め、次なる事業への具体的な行動を明確にします。</p>
	<p>5.事業概要:まちへの誇りや愛を生み出す</p> <p>特定の場所にのみ人が集中し、周りには誰も足を運ばないなど、魅力ある観光資源を活かしきれていない現状の課題を解消するため、様々な団体と情報交換を行い、手を取り合いながら地域の魅力を最大に活かした事業を実施することで、地域の方々にまちへの誇りや愛を生み出します。</p>

- 2 月研修例会(土台作り)
- 4 月異業種交流会例会(拡大)
- 6 月選挙例会(選挙)
- 8 月まちを知る例会(町の解像度を上げる)
- 10 月資源を最大限に使った例会(町の解像度を上げる)
- 12 月卒業例会

2026 年度例会担当委員会

1月 -

2月 -

3月 次世代育成委員会

4月 次世代育成委員会

5月 -

6月 次世代育成委員会

7月 -

8月 次世代育成委員会

9月 -

10月 次世代育成委員会

11月 -

12月 三役

2026年度一般社団法人 さくら青年会議所収支予算

収入の部

(単位/円)

款	項	予算	摘要
会費	正会員会費	¥300,000	50,000円×6名
	休会員会費	¥0	
	新入会員会費	¥500,000	50,000円×10名(目標)
	特別会員会費	¥100,000	50,000円×2名
	賛助会員会費	¥710,000	10,000円×71名
入会金	新入会員入会金	¥100,000	10,000円×10名(目標)
その他	雑収入	¥0	
	宮城ブロック大会登録費	¥0	
	新年式典登録料	¥1,040,000	13,000円×80名
	前期繰越金	¥180,000	
	合計	¥2,930,000	

支出の部

(単位/円)

款	項	2026予算	摘要
負担金	日本JC会費	¥110,000	基本30,000円+(5,000円×16名)
	JCI会費	¥35,360	2,210円×16名
	東北地区協議会会費	¥29,000	基本5,000円+1,500円×16名
	国際協力資金	¥29,200	1,825円×16名
	未来の青年会議所を創る協力金	¥24,000	1,500円×16名
	地区出向者負担金	¥0	
	宮城ブロック協議会会費	¥108,400	基本10,000円+6,150円×16名
	宮城ブロック大会登録費	¥0	
	東北青年フォーラム大会費	¥0	
	計	¥335,960	
購読料	機関誌購読料	¥24,000	1,500円×16名
	計	¥24,000	
事務管理費	JCハウス家賃	¥180,000	15,000×12か月
	通信費	¥80,000	電話代、FAX代等
	HP管理費	¥101,200	WEB制作(50,000)管理費(3,500×12ヶ月)+税
	備品・消耗品	¥0	
	リース費	¥0	
	印刷費	¥0	
	外部委託費	¥333,960	佐藤吉尚税理士事務所
	水道光熱費	¥60,000	5,000(概算)×12か月
	登記申請手数料	¥10,000	
	雑費	¥5,000	諸々振込手数料
会議費	計	¥770,160	
	総会費	¥60,000	30,000円×2回
	会議費	¥0	今後JCハウスにて理事会、三役会を行う
	新年式典	¥680,000	8,500×80名
	計	¥740,000	
	次世代育成委員会	¥200,000	
		¥0	
	計	¥200,000	
その他	渉外費	¥100,000	
	LOM手帳	¥0	
	スローガン横断幕	¥0	
	各種大会参加費助成金	¥0	
	会員慶弔費	¥20,000	
	予備費	¥30,000	
	基本金繰入金	¥0	
	プレゼンショナルリース刻印代	¥0	
	卒業者記念品	¥8,000	8,000円×1名
	備品購入費	¥5,000	
	計	¥163,000	
	合計	¥2,233,120	
	次期繰越	¥696,880	

一般社団法人さくら青年会議所 2026 年度会員

役職	氏名	入会年度	勤務先
理事長	多田 光矢朗	2024 年	(株)アステム
副理事長兼専務理事	相馬 利也	2024 年	(株)ヒルズ
財政局長兼事務局長	宮本 敏史	2024 年	(株)四保工務店
次世代育成委員会 委員長	菅野 友道	2025 年	東禅寺
次世代育成委員会 副委員長	豊田 貴大	2025 年	日本生命保険
次世代育成委員会 副委員長	平間 愛	2025 年	大同生命保険